

平成 2 2 年度

社会福祉法人 **堺あけぼの福祉会**

# **事業報告書**

平成 2 2 年 5 月 2 9 日

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会

## 社会福祉法人 堺あけぼの福祉会 の経営状況について総括

通所部門は堺あけぼの園・集い「あけぼの」が共に平成18年10月に障害者自立支援法の障害福祉サービスに移行したことにより経営の安定化と共に、看護職員や機能訓練士などの配置や生活支援員を数多く配置できたことにより、より良い支援が提供できた。また、定員緩和により多くの新規利用者を受け入れることが出来たので新規事業所の設置が必要である。(平成23年7月1日生活介護事業開始予定)

居宅部門においては、堺あけぼの園ヘルパーステーションが移動支援を中心に居宅介護を提供。複数のサービス提供責任者を配置できたことで、安定したサービスの提供と利用者拡大につながった。また平成15年度から開始したガイドヘルパー養成研修では受講生が延べ400名を超えた。更に、主に法人内利用者の利用であるが平成22年5月20日から福祉有償運送事業を開始。今後はドライバーの増員が課題である。

平成20年6月に事業開始したショートステイ堺あけぼのは、人件費率が100%を超えるという経営的な課題は山積しているが、堺市への要望の結果、平成23年度から堺市単独の補助制度が創設(再構築)された。今後はより安定した支援と利用促進のためにも職員のスキルアップと人材確保が求められる。

相談部門においては、平成16年度に堺市から委託を受け開始した生活支援センター堺あけぼのはより複雑化・深刻化する相談に対する相談支援や他の事業所からの依頼によりグループホーム含む独居障害者の金銭管理や通院のためのサポートなど相談の域を超えた支援も行ってきた。また相談員を1名新規雇用し、多数の相談支援を行うとともに堺市障害者自立支援協議会の事務補助という大役を担い、堺における相談支援事業所の中心的立場を担えるようになった。今後は「堺市における相談支援体制の再編」に如何に対応していくかが課題である。

最後に、社会福祉法人堺あけぼの福祉会は各事業の安定と拡充は勿論、新たな事業展開「生活の場」へ向けて法人役員、職員、そして法人の母体である堺市肢体不自由児者父母の会が一丸となって推進して行く事が今後の大きな課題であり長期目標である。

### ①法人全体における「事業活動収支」の推移(事業活動収支内訳表より) 単位:円

勘定科目/年度	堺あけぼの福祉会		
	20年度	21年度	22年度
就労支援事業収入	2,931,256	2,378,470	2,859,154
就労支援事業支出	3,116,944	2,984,420	2,702,306
収支差額①	-185,688	-605,950	156,848
自立支援費収入	184,120,944	215,242,784	221,879,778
利用料収入	5,762,255	6,229,900	6,137,863
補助事業収入	37,308,561	43,553,775	46,310,766
養成研修事業収入	845,000	1,143,640	962,960
福祉有償運送事業収入	0	0	94,950
経常経費補助金収入	6,000,000	7,887,040	12,401,821
堺市障害者自立支援協議会事務局補助金	0	0	4,302,920
寄付金収入	2,733,954	2,525,100	1,947,600
雑収入	7,359,663	7,148,626	6,256,967
国庫補助金等特別積立金取崩額	9,368,082	10,261,890	10,945,786
福祉事業活動収入計	253,498,459	293,992,755	311,241,411
人件費支出	172,492,491	190,188,786	211,175,594
事務費支出	24,486,679	22,819,902	49,914,701
事業費支出	20,552,226	23,994,181	25,173,334
減価償却費	13,860,935	14,576,105	15,720,706
徴収不能額	0	0	1,400
引当金繰入	702,000	670,633	1,051,200
福祉事業活動支出計	232,094,331	252,249,607	303,036,935
収支差額②	21,404,128	41,743,148	8,204,476
事業活動外収入	78,256,305	100,158,927	21,776,686
事業活動外支出	78,160,736	100,268,893	22,011,900
収支差額③	95,569	-109,966	-235,214
特別収入	7,439,000	7,904,000	24,165,000
特別支出	5,021,818	7,274,001	5,000,000
収支差額④	2,417,182	629,999	19,165,000
総収支差額①+②+③+④	23,731,191	41,657,231	27,291,110

②法人役員・役職員一覧（平成23年3月31日現在）

社会福祉法人 堺あけぼの福祉会		施設・事業所の役職員	
理事長・評議員	上野 紀美	堺あけぼの園	
副理事長(理事長職務代理)・評議員	江部 高廣	施設長(サービス管理責任者)	但馬 秀樹
理事(務職)・評議員	山本 好隆	総括主任	濱野 雅一
理事・評議員	古林 寛子	主任	弘中 正和
理事・評議員	藤本 太	主任	藤井 宏紀
理事・評議員	三好 久恵	堺あけぼの園ヘルパーステーション	
理事・評議員	松若 貞二	管理者	但馬 秀樹
理事・評議員	但馬 秀樹	サービス提供責任者	藤森 文子
評議員	貴島 裕	サービス提供責任者	密本 眞弓
評議員	吉谷 知子	サービス提供責任者	平野のり子
評議員	小川 耕二	生活支援センター堺あけぼの	
評議員	小林 寛美	管理者	山本 好隆
評議員	堀口 勝	主任相談員	南川 英宏
評議員	植山 晃弘	集い「あけぼの」	
評議員	中村 知	施設長(サービス管理責任者)	山本 秀紀
評議員	清水 正志	ショートステイ堺あけぼの	
評議員	山口 達雄	管理者	但馬 秀樹
監事	風呂 信一	事業責任者	濱野 雅一
監事	近藤 宏良		

【法人役員の変遷】

平成22年12月18日付

- 退任 ⇒ 理事・評議員今井 清行、評議員松若 弘美  
 新任 ⇒ 理事・評議員松若 貞二、評議員山口 達雄

【役職員の動向】

平成23年 3月31日付

- 退職 ⇒ 堺あけぼの園ヘルパーステーション サービス提供責任者藤森 文子  
 採用 ⇒ 堺あけぼの園ヘルパーステーション サービス提供責任者西川 加奈

③事業所別人件費率一覧（本部除く、平成22年度）

堺あけぼの園		堺あけぼの園ヘルパーステーション		生活支援センター堺あけぼの	
自立支援費収入	人件費支出	自立支援費収入	人件費支出	自立支援費収入	人件費支出
¥142,952,470	¥91,952,057	¥39,871,980	¥33,867,497	¥17,543,120	¥13,428,404
64%		85%		77%	

集い「あけぼの」		ショートステイ堺あけぼの	
自立支援費収入	人件費支出	自立支援費収入	人件費支出
¥66,668,880	¥40,713,678	¥23,996,698	¥26,179,616
61%		109%	

5事業合計	
自立支援費収入	人件費支出
¥291,033,148	¥206,141,252
71%	

- ★自立支援費収入には、利用者負担金収入と補助事業収入と経常経費補助金収入を含む。  
 ★生活支援センター堺あけぼのの収入には、自立支援協議会事務局補助の収入を含める。

④堺あけぼの福祉会 職員一覧表

21年度末				22年度末				増減
職種	雇用形態	労働時間数	員数	職種	雇用形態	労働時間数	員数	
<b>堺あけぼの園</b>								
施設長	常勤(兼務)	8	1	施設長	常勤(兼務)	8	1	0
サービス管理責任者	常勤			サービス管理責任者	常勤			
生活支援員	常勤	8	5	生活支援員	常勤	8	5	0
生活支援員	常勤(兼務)	8	1	生活支援員	常勤(兼務)	8	1	0
職業指導員	常勤	8	1	職業指導員	常勤	8	1	0
生活支援員	非常勤	7	2	生活支援員	非常勤	7	2	0
生活支援員	非常勤	8	3	生活支援員	非常勤	8	5	2
生活支援員	非常勤	5.5	15	生活支援員	非常勤	5.5	18	3
事務員	常勤	8	1	事務員	常勤	8	1	0
調理員	常勤	8	1	調理員	常勤	8	1	0
調理員	非常勤	5.5	1	調理員	非常勤	5.5	2	1
運転手	非常勤	5	3	運転手	非常勤	5	4	1
機能訓練士	非常勤	5.5	3	機能訓練士	非常勤	5.5	3	0
作業療法士	非常勤	5.5	1	作業療法士	非常勤	5.5	1	0
言語聴覚士	非常勤	5.5	1	言語聴覚士	非常勤	5.5	1	0
看護職員	非常勤	5.5	1	看護職員	非常勤	5.5	2	1
看護職員	非常勤	6.5	1	看護職員	非常勤	6.5	1	0
音楽療法士	非常勤	2	1	音楽療法士	非常勤	2	1	0
		合計	42			合計	50	8
		常勤	10			常勤	10	0
		非常勤	32			非常勤	40	8
※機能訓練士・言語聴覚士は週1日1名勤務・作業療法士は週2日勤務・音楽療法士は月2日勤務								
<b>堺あけぼの園ヘルパーステーション</b>								
管理者	常勤(兼務)	8	1	管理者	常勤(兼務)	8	1	0
サービス管理責任者	常勤	8	2	サービス管理責任者	常勤	8	3	1
サービス管理責任者	非常勤	8	1	サービス管理責任者	非常勤	8	1	0
		合計	4			合計	5	1
		常勤	3			常勤	4	1
		非常勤	1			非常勤	1	0
※サビ提常勤3名のうち1名は年度末に雇用								
<b>生活支援センター堺あけぼの</b>								
管理者	非常勤		1	管理者	非常勤		1	0
相談員	常勤	8	2	相談員	常勤	8	3	1
相談員	常勤(兼務)	8	1	相談員	常勤(兼務)	8	1	0
ピアカウンセラー	非常勤		3	ピアカウンセラー	非常勤		3	0
		合計	7			合計	8	1
		常勤	3			常勤	4	1
		非常勤	4			非常勤	4	0
※ピアカウンセラーは要望があった時のみ勤務								
<b>集いあけぼの</b>								
施設長・サビ管理	常勤	8	1	施設長・サビ管理	常勤	8	1	0
生活支援員	常勤	8	4	生活支援員	常勤	8	4	0
生活支援員	非常勤	5	1	生活支援員	非常勤	5	0	-1
生活支援員	非常勤	5.5	4	生活支援員	非常勤	5.5	4	0
生活支援員	非常勤	8	1	生活支援員	非常勤	8	3	2
生活支援員	非常勤	7.5	1	生活支援員	非常勤	7.5	1	0
調理員	非常勤	4.5	3	調理員	非常勤	4.5	3	0
添乗員	非常勤	2	3	添乗員	非常勤	2	3	0
運転手	非常勤	4	2	運転手	非常勤	4	3	1
機能訓練士	非常勤	5.5	1	機能訓練士	非常勤	5.5	1	0
看護職員	非常勤	6	1	看護職員	非常勤	6	1	0
		合計	22			合計	24	3
		常勤	5			常勤	5	0
		非常勤	17			非常勤	19	2
※調理員は1日2名勤務・機能訓練士は週1日勤務								
<b>ショートステイ堺あけぼの</b>								
管理者	常勤(兼務)	8	1	管理者	常勤(兼務)	8	1	0
事業責任者	常勤(兼務)	8	1	事業責任者	常勤(兼務)	8	1	0
サービス調整責任者	常勤(兼務)	8	1	サービス調整責任者	常勤(兼務)	8	1	0
生活支援員	常勤	8	2	生活支援員	常勤	8	2	0
生活支援員	非常勤	※	16	生活支援員	非常勤	※	15	-1
		合計	21			合計	20	-1
		常勤	5			常勤	5	0
		非常勤	17			非常勤	15	-2
※夜勤・早朝・日中・夕方の時間帯に限定して勤務								

## 1. 定款及び基本理念、基本方針

定款の目的「多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する」法人基本理念「重度重複障害者の方々の生活を支える。」法人基本方針「①私たちは、重度重複障害者の生活を保障すべく、本人主体の障害者福祉サービス確立を目指します。②私たちは、障害者福祉の専門性とサービスの質を高めるため、たゆまぬ自己研鑽をします。③私たちは、法人の専門性を生かしながら、地域の人々と連携し、積極的に地域福祉を推進します。」との定款の目的・基本理念・基本方針に沿って、各事業の経営並びに法人事業の拡大に努力した。

## 2. 役員会等開催状況

### ア、理事会準備会

開催なし

### イ、評議員会

第28回	平成22年	5月13日	法人役員・共同募金助成金
第29回	平成22年	5月30日	21年度事業、決算・法人内部事業年度末監査報告・その他
第30回	平成22年12月	18日	補正予算・新設通所施設・法人内部中間監査・その他
第31回	平成23年	3月27日	23年度事業計画、予算・補正予算

### ウ、理事会

第86回	平成22年	5月13日	法人役員・共同募金助成金・事業展開(生活の場)
第87回	平成22年	5月30日	21年度事業、決算・法人内部事業年度末監査報告・その他
第88回	平成22年	6月30日	大規模修繕事業
第89回	平成22年	7月22日	大規模修繕事業
第90回	平成22年	9月30日	大規模修繕事業・補正予算・新設通所施設
第91回	平成22年12月	18日	補正予算・新設通所施設について・法人内部中間監査・その他
第92回	平成23年	3月27日	23年度事業計画、予算・補正予算

### エ、監査

①法人内部監査 21年度事業年度末監査：平成22年 5月15日  
22年度中間監査 :平成22年12月11日

②堺市指導監査 平成22年12月3日：法人本部 ⇒ 結果通知「概ね適正と認められます」(23.1.14)  
堺あけぼの園(正式な監査ではないが、堺市障害福祉課が大阪府の実地指導にそってチェック)

③堺市実地調査 平成23年2月25日：生活支援センター堺あけぼの

### オ、理事・実務者合同会議

開催なし

## 3. 支援研究部会

常勤の支援員・相談員で構成し、「法人資源の有効活用」「事業・職員間の連携強化」を目的に活動(全体会)

2ヶ月に1回(奇数月)開催し、国や市の動きの情勢報告を行い、各事業所からの情報提供、伝達研修、そして以下に報告する各部からの報告と提案・意見交換を行った。

(部活動) ★部活動は随時開催した。

①研修部 法人内部研修のあり方について

②広報部 「福祉会だより」の発行やホームページの更新

☆ホームページアドレス <http://care-net.biz/27/sakaiakebono/index.php>

③開拓部 利用者確保の為にイベントなどを企画

☆型染め体験教室(平成22年11月27日)

☆ホワイトデー作品展(平成22年3月14日)

⇒ 各支援学校・障害者施設・個人からの作品を展示し、体験教室(柄の消えない石鹼・オープン粘土)や自主製品販売・食品(豚汁・焼きそば)の販売を行った。

#### 4. 各事業の経営 ③詳細は後記

①堺あけぼの園 = 利用者増と法人事業展開のために非常勤生活支援員を増員

②集い「あけぼの」= 利用者の入院(2名)により長期欠席中

③堺あけぼの園ヘルパーステーション = 福祉有償運送事業の開始(平成22年5月20日付)

④ショートステイ堺あけぼの = 堺市障害者(児)短期入所緊急利用支援事業を年度末で辞退

⑤生活支援センター堺あけぼの = 相談員を1名増員・堺市自立支援協議会事務局補助を担う

#### 5. 幹部職員人事

①堺あけぼの園ヘルパーステーション

サービス提供責任者：密本 眞弓・平野 のり子(平成22年4月1日)

#### 6. 苦情解決体制について

日中活動の事業所において利用者の個別支援に関するものは、日々利用者・家族の方々と意思疎通をしているので、日々の中で解決している。

【苦情内容】 なし

【苦情解決組織】

(苦情受付担当者) 堺あけぼの園=濱野 ・ 堺あけぼの園ヘルパーステーション=藤森  
生活支援センター堺あけぼの=南川 ・ 集い「あけぼの」=山本(秀)  
ショートステイ堺あけぼの=濱野

(苦情解決責任者) 堺あけぼの園・堺あけぼの園ヘルパーステーション・ショートステイ堺あけぼの=但馬  
生活支援センター堺あけぼの=山本(好) ・ 集い「あけぼの」=山本(秀)

(第三者委員) 風呂・近藤(共に法人監事)

#### 7. 法人事業拡大について

- ・当法人3番目となる日中活動事業所を整備⇒(仮称)絆あけぼの：平成23年7月事業開始予定
- ・現在、堺あけぼの園を利用されている比較的軽度で日常的に医療的な支援を要しない障害者の活動場所として整備し、重度者とくに在宅を余儀なくされている人たちの活動場所として堺あけぼの園を位置づける。
- ・障害福祉サービス事業 生活介護、定員20名
- ・堺市南区三原台3-40-8
- ・賃貸物件を改築 ⇒ ①内部に階段を設置(階段昇降機)  
②トイレの増改築  
③障害者施設に適合させるための各種改築
- ・改築費用 = 7,027,800円 ⇒ 整備会計は「絆あけぼの会計」として決算しました。

# 堺あけぼの園

## はじめに

平成18年10月に障害者自立支援法による「生活介護」と「就労継続支援B型」に移行し、これまでの実績を生かし「生産活動を重視する利用者」と「生産活動と生活支援を重視する利用者」の2つのグループを編成。看護職員による医療や機能訓練・作業療法・言語聴覚士の側面からの支援や音楽療法・医療機関からの出張による口腔ケア(ともに希望者のみ)や入浴サービスを実施。平成22年4月に3名(男性2名・女性1名)、10月に1名(男性)の利用者を迎えた。平成22年7月に家族が開設した居宅介護事業所に就職した方が1名(男性)、12月に他府県の入所施設に入所された方が1名(女性)おられます。51名の利用者で年度を終了するが、長期欠席者が2名おられるので、実質49名である。(年度末から1名(女性)が入院中)

創立16年目の事業内容などの概要は以下のとおりである。

## 1. 利用者の状況 (平成23年3月31日現在・長欠者2名を除く)

### ア、男女別(障害程度区分)

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性 24名	0名	2名	5名	1名	3名	15名	26名
女性 22名	0名	2名	1名	4名	8名	8名	23名
合計	0名	4名	6名	5名	11名	23名	49名

### イ、障害別等級の状況

男 性				女 性				男女重複障害	
身体障害	知的障害	身体障害	知的障害	身体障害	知的障害	身体障害	知的障害		
1級 15名	A 17名	1級 14名	A 15名	1級・A	19名				
2級 9名	B1 1名	2級 6名		2級・A	9名				
3級 2名	B2 1名	3級 2名		3級・A	3名				
	無 7名	5級 1名	無 8名	5級・A	1名				
合計 26名	合計 26名	合計 23名	合計 23名	1級・B2	1名				
				2級・B1	1名	合計	31名		

### ウ、生活介助面の状況(施設内での状況)

#### ①摂食

	全介助	部分介助	自 立	経管栄養	計
男 性	19名	5名	11名	1名	26名
女 性	8名	1名	14名	0名	23名
合 計	17名	6名	25名	1名	49名

#### ②排泄

	全介助	部分介助	自 立	合 計	おむつ使用	自己導尿
男 性	14名	2名	10名	26名	9名	1名
女 性	4名	17名	2名	23名	4名	1名
合 計	18名	19名	12名	49名	13名	2名

#### ③移動

	車椅子介助	車椅子自走	歩行具使用	電動車椅子	独歩(補助)	合 計
男 性	8名	1名	3名	5名	9名	26名
女 性	5名	7名	1名	3名	7名	23名
合 計	13名	8名	4名	8名	16名	49名

### エ、地域別利用者数

堺 市	42名	和泉市	5名	岸和田市	2名	合 計	49名
-----	-----	-----	----	------	----	-----	-----

## 2. 生産活動・支援内容

★「堀田プラスチック工業」「(株)まるき」「日邦樹脂」からのプラスチック成型・組み立ての仕事等に取り組み、堀田プラスチックからの「はるやまハンガー」においては他施設と連携し組み立てている。堺あけぼの園の「給食メニューカレンダー」のパソコン入力作業を受注。自主製品の製作販売では、保護者の方々の協力による各種小物類や定番の「粘土製品」「七宝焼き」「エコポット」などに取り組み、「Passer」などの常設店、月1回開催の「ギャラリーみなみかぜ」、各種バザーやバザール、施設まつり(ハートフルバザール・ふれあいの街チャリティーバザール・南区ふれあいフェスティバル等)で販売した。また、「エル・チャレンジ」から「エコポット」の大量注文を受けた。そして御池台校区・庭代台校区自治連合会主催行事に精力的に参加し、日本財団の助成を受けて導入した「移動販売車」を活用し「みたらし団子」などの販売活動も利用者とともにいった。

★理学療法士と作業療法士が週4日、言語聴覚士が週1日、看護職員3名の配置により、利用者の日常生活動作や車椅子での姿勢、食事摂取の姿勢及び健康面において、専門職と生活支援員が連携し支援することが出来た。レクリエーション諸活動においては外出活動(喫茶店など)も行い、「型染め」においては講師を招聘し月2回希望者が参加する作業グループの枠組みを超えたサークル的活動としていった。今後は、生産活動となるよう職員と利用者の技術向上が課題である。

### ア、作業グループ配置状況(平成23年3月31日現在)

作業グループ	成型加工班	就労B型	生活介護	自主製品班	生活介護	合計	就B	生介
男性	11名	4名	7名	15名	15名	26名	4名	22名
女性	9名	2名	7名	14名	14名	23名	2名	21名
小計	20名	6名	14名	29名	29名	49名	6名	43名
						定員	10名	30名

### イ、課題

納期と作業能力そして活動内容や利用者の体調や加齢に伴う機能低下を考慮して、如何に無理なく生産活動を継続していくかが大きな課題である。(日々の職員による残業でカバーしている)そして、自主製品の取り組みは地域への施設理解のひとつとしても重要であるのだが、販売活動への利用者の関わりと職員が販売要員として休日出勤することの負担軽減が課題である。

## 3. 日課・行事活動・生活支援

### ア、日課(1日のプログラム)

曜日	時間	成形加工班	自主製品班
月	10:00~11:45	作業	作業
	13:30~15:30	作業	カラオケ
火	10:00~11:45	作業	作業
	13:30~15:30	作業	レクリエーション・作業・調理実習
水	10:00~11:45	作業	作業
	13:30~15:30	作業	体操 or 音楽
木	10:00~11:45	作業	作業
	13:30~15:30	作業	ビデオ鑑賞
金	10:00~11:45	作業	作業
	13:30~15:30	作業	生活 or 絵本

### イ、日常生活支援・介助

看護職員を配置し医療的行為を要する利用者への対応だけでなく、さまざま配慮を要する方々への支援を理学療法士や言語聴覚士とともに専門職という視点から障害者支援を行った。

また、非常勤職員を多く雇用することでより充実した生活支援が実施できた。(男性スタッフ2名増員)

## ウ、送迎体制

「リフト付きマイクロバス」「10人乗りリフト車」等、6台の車両を活用し、29名の利用者を朝は6コース、夕方は5コースで行った。車輛担当者が日常的に出欠状況に合わせて、運転にあたる職員(運転手)、車種、乗車人数とコース変更や調整を行い、安全で効率の良い運行に努めた。

保護者の自家用車による送迎が17名、自力通所が3名である。自家用車による送迎をされている利用者の臨時送迎利用も対応した。

今後は、車両と運転手の増員などを充実させ、一人でも多く送迎利用をしていただく体制としていく。

## エ、行事活動

### (1) サマーパーティー

午前中はスーパーボールすくい、水鉄砲を使った射的、実習生考案のゲームなどを施設内外にコーナーを設置し行い、午後からは職員や実習生による出し物を見て参加し、夏の風物詩をみんなで楽しんだ。

### (2) 日帰り旅行

滋賀県の長浜のレトロな町並みや様々な店や展示物を観て、買い物を楽しんだ。職員やボランティアさん、学生の実習生と共に秋の一日を満喫した。

### (3) クリスマス会

冬の恒例行事として行われた「クリスマス会」。今年も「ビック・アイ」にて午前中は音楽クラブによるハンドベルの演奏、バンド演奏(ボランティアさんによるギターと歌のデュオ)を楽しみ、午後からはプレゼント交換を行って楽しんだ。

### (4) クラブ活動

毎月第3金曜日の午後に外部から講師ボランティアを招聘し実施。例年通りの「音楽」「カラオケ」「書道」に新たに「フラワーアレンジメント」を立ち上げた。クラブをただの集まりだけに終わらせず、近隣施設へ作品の寄贈や作品展への出展、クリスマス会で「音楽」「カラオケ」クラブの発表等を行うことで目的を持って取り組むことが出来た。

### (5) 参加行事

- |                       |          |                |
|-----------------------|----------|----------------|
| ・よさこい in ハーベストの丘      | ハーベストの丘  |                |
| ・女性体育祭                | 大仙公園催し広場 | 堺市女性団体連絡協議会    |
| ・堺市障害者スポーツ・レクリエーション大会 | 大仙公園催し広場 | 堺市身体障害者団体連絡協議会 |

### (6) 福祉会まつり

集い「あけぼの」との合同行事として、堺市地場産業振興センター内にあるイベントホールを使用した。午前中は職員による出し物を披露し、午後からはボランティアによるイベントで観て楽しむ行事となった。

## 4. 給食

### ア、年間における給食状況

- ・11時30分に配膳を非常勤生活支援員と共に開始し、12時からの給食実施に努めた。
- ・月に一度は「パン類」と「麺類」のメニューとした。
- ・一人あたりの目標摂取カロリーを665kcalとし、メニューを工夫した。
- ・利用者の希望に合わせ御飯の量を大・中・小とし、また、食事形態も利用者の状態に応じたものとした。
- ・一食あたり400円を目指し、新メニューも積極的に取り入れた。
- ・月1回「メニューカレンダー」を配布。⇒入力作業は利用者さんの仕事とした。

### イ、特別食状況

- ・月末給食(毎月最終日)では、「選択メニュー」(2種類のおかずを選ぶ)を実施。

- ・嚥下に配慮を要する方々への提供として、「ミルでのミキサー」や「刻み」「おかゆ」など個別の対応が増えてきた。

## ウ、集団食中毒の対策

- ・生物は避け、必ず加熱したものを提供するよう、メニューも工夫した。
- ・調理前後には調理員の手や調理器具等のアルコール消毒(スプレー式)を実施。
- ・配膳時は配膳を行う職員は手を消毒し、テーブルは布巾で拭いてからアルコール消毒(スプレー式)を実施。
- ・利用者も食事前には必ず手洗いとアルコール消毒(スプレー式)を実施。職員が食事介助を実施する前も同様に消毒を実施。
- ・専門業者による「受水槽」「厨房」の点検と清掃。そして害虫駆除も実施。
- ・「飲料用水の使用前後に水質検査」「毎朝配送された食材の適正温度を確認・検査」「調理時に適正温度を中心温度計にて検査」をそれぞれ毎日必ず実施。

## エ、その他

- ・調理員(臨時で入る非常勤生活支援員2名を含む)は、検便を毎月実施。
- ・給食の配膳前に調理員以外の職員(主に施設長)により検食を実施。
- ・食堂及び厨房の清掃・消毒・点検を毎日実施し、清潔を保つ様に努めた。
- ・食材納入業者が21年度末で廃業となったため、新たな業者を他施設の紹介を受け契約した。

## 5. 健康管理

### ア、利用者健康診断

- ・健康管理の一環として嘱託医(江部医師)により年2回実施。

### イ、医務室の利用状況など

- ・利用は胃瘻ケアを中心とし、糖尿病利用者の血糖値管理やインシュリン注射を行う。また、ケガの処置などは作業室での対応の方が良いと判断したケースもあった。
- ・利用の内容：胃瘻ケア・糖尿病管理・服薬管理・小発作・風邪による発熱・体調不良など。

### ウ、発熱時の対応

- ・登園後に37.0度の熱が検温で確認され次第、家庭に連絡し帰宅して静養していただいた。
- ・上記対応は、他の利用者等への影響にも配慮したものである。

## エ、その他

- ・看護職員を3名配置することで医療的ケアを要する利用者も安心して利用できる様になったとともに、発熱・怪我・発作などを専門職として対応することで、利用者・家族だけでなく生活支援員も安心感が増大した。
- ・入浴前のバイタルチェックや日常的にケアだけでなく、利用者への精神的サポートも行ってきた。
- ・月に一回「体重」「体温」「脈拍」「血圧」を測定し、時々に応じた「お知らせ」と共に各利用者へ配布し、健康意識向上に努めた。
- ・今後も複数名の看護職員を配置し、利用者の体調の変化を察知するとともに、医療と福祉の連携をより一層強化していく。

## 6. 防災対策

### ア、消防訓練

- ・利用者の安全確保という施設運営の原則に立ち、防火管理者の資格を持つ職員が担当者となり、防災意識の向上に努めると共に、訓練の企画実施にあたった。

### イ、消防設備点検

- ・専門業者による保守点検：外観機能点検・総合点検

## 7. 施設・設備の管理

- ・日常的に施設内の清掃を実施。(作業室・食堂・廊下・階段・玄関は毎日、トイレは毎週末に実施)
- ・夏と冬に利用者と職員で大掃除を実施。(職員は後日、施設内外を重点的に清掃・点検・整理整頓を実施)
- ・「エレベータ」と「電気設備」の点検は、毎月1回専門業者により実施。
- ・専門業者により「施設内の洗浄とワックス掛け」「受水槽の点検清掃」
- ・課題として、利用者の安全確保と効率よい仕事を目指し、各種物品の日常的な整理整頓しなければならない。

## 8. 地域との交流等

### ア、御池台校区自治連合会・庭代台校区自治連合会

- ・「御池ふるさとまつり」「庭代台盆踊り大会」「庭代子ども祭」において自主製品・食品(みたらし団子・かき氷・焼きおにぎり)の販売をさせていただく。
- ・「御池台校区福祉委員会」に職員が出席し、地域や学校の問題や課題を共に話し合う。

### イ、体験実習(見学)の受け入れ

- ・「府立堺支援学校」「府立岸和田支援学校」「市立上神谷支援学校」より、生徒の体験実習を受け入れた。

### ウ、職場体験実習の受け入れ

- ・「庭代台中学校」より生徒を受け入れる。利用者とふれあう事や職員の仕事を体験した事で障害者福祉の一端を学んだようである。

## 9. ボランティアの協力・支援等

クラブ講師や日常のレクリエーションボランティアを例年通り支援を得た。日常的に介助ボランティアの支援を得られなかったものの、清掃ボランティア(2名)の橋梁を得ることが出来た。今後は作業ボランティアの支援を積極的に呼びかけていきたい。

## 10. 職員の健康管理と研修等

### ア、職員健康診断

- ・職員の健康管理のため、訪問による健康診断を実施する病院に依頼し、健康診断を法人全体として実施。
- ・調理員(臨時で入る非常勤生活支援員2名含む)は、毎月検便を専門業者に依頼して実施。

### イ、職員研修

- ・堺障害児者施設部会 実践交流会 ・ギャラリーみなみかぜ ・サービス管理責任者にかかわる研修
- ・その他各種研修⇒民間事業者対象社会福祉研修、看護職員等研修会、堺市障害福祉市民講座、障がい児者施設専門ゼミナール、医療的ケアを考える会シンポジウム、メンタルヘルスケア講習会、スーパーバイザークラスにおける人権研修、堺市調理師研修会・特定給食講演会、社会福祉士実習指導者講習会、個別相談援助技術研修、福祉専門職講座【中堅職員】、てんかん基礎講座、虐待問題の背景と対策を考える研修会、福祉職員研修【新任職員】、食中毒予防講習会、同和・人権問題啓発入門講座、指定障がい福祉サービス事業者等集団指導、新入職員のためのサービスマナーセミナー



# 集い「あけぼの」

## はじめに

- ・19名の利用者と年度を開始。利用者の年齢層は20歳から49歳と幅が広い。障害別では肢体不自由者1名、重複障害者18名であった。9月に男性1名を迎え、20名となるが2月初頭でその男性1名が自己都合により退所となった。また、7月終り頃に1名、12月初頭に1名の利用者が、体調を崩し入院し、医療的ケアが必要な状態となる。3月現在、1名は2月末に退院し、在宅で過ごすはまだ通所出来るようになるまで時間がかかる。またもう1名は入院中であり、この方も通所の見通しが立っていない。19名で年度を終了するが、実質は17名である。
- ・日中の活動内容を「生産・創作活動・体操・班活動」に分け、また「午後より2名ずつの入浴」を実施、利用者の様子や希望に応じた取り組みを心がける内容とした。
- ・開所6年目の事業内容などの概要は以下のとおりである。

## 1. 利用者の状況

### ア、男女別障害程度区分(以下は平成23年3月31日現在)

	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性 8名	0名	0名	3名	5名	8名
女性 11名	0名	0名	1名	10名	11名
合計	0名	0名	4名	15名	19名

### イ、障害別等級の状況

男 性				女 性				男女重複障害	
身体障害		知的障害		身体障害		知的障害		1級・A	13名
1級	7名	A	8名	1級	7名	A	10名	2級・A	5名
2級	1名	無	0名	2級	4名	無	1名		
合計	8名	合計	8名	合計	11名	合計	11名	合計	18名

### ウ、生活介助面の状況

#### ①摂食

	全介助	部分介助	自立	合計
男性	5名	3名	0名	8名
女性	6名	5名	0名	11名
合計	11名	8名	0名	19名

#### ②排泄

	全介助	部分介助	合計	自立	おむつ使用
男性	7名	1名	8名	0名	4名
女性	10名	1名	11名	0名	8名
合計	17名	2名	19名	0名	12名

#### ③移動

	車椅子介助	車椅子自走	歩行具使用	電動車椅子	独歩	合計
男性	6名	2名	0名	0名	0名	8名
女性	7名	0名	0名	0名	4名	11名
合計	13名	2名	0名	0名	4名	19名

## 2. 生産、創作活動・支援内容

### ア、生産活動について

- ・堺あけぼの園が受注している、「ハンガー組立」・「かしこいパック」を行っている。また、PT士会よりの機関誌の発送業務を行っている。
- ・アルミ缶回収に関しては、定期的に協力して頂いている方・地域で協力して頂いている方からの回収を、送迎時や地域向け機関紙ポスティングの際に実施。

### イ、創作活動について

- ・「型染め」に関しては、継続してミシンのボランティアの協力を得ながら、主に「エプロン」「コースター」「巾着」の縫製を実施して頂く。また小物類・雑貨（額・筆箱など）を仕入れ、商品点数を増やした。
- ・「柿渋染め」に関しては、昨年引き続き「菓子盆」を中心に実施。
- ・「染め紙」に関しては、堺市女性団体協議会の女性大学（絵手紙）の講師より講座に使用するとのも事で、毎月100枚程の注文を継続して納品している。

## ◎ 現状と今後の課題

### ※現状

- ・生産活動に関しては、利用者にあった作業工程を検討しながら取組んでもらうが、最近ほとんど仕事がなく臨時的に入ってくる仕事をこなす程度である。
- ・「アルミ缶回収」に関しては、単価も変わらず、売上げを昨年度と比べると97%でほぼ同等であった。
- ・「自主製品の制作」に関しては、制作点数は昨年同等数完成できた。利用者スタッフが出来るだけマンツーマンで（型選び・色選び・一緒に染める）取り組んだ。染める品物が定番となりつつあり、目新しい商品制作する事が出来なかった。
- ・「自主製品の販売」に関しては、バザーを中心に実施。収益は前年度比で90%と減少している。これは出店するバザーが決まっているので、定番商品は飽きられてきたのではないかとの反省もあり、新商品の開発が課題である。年度末から、中区において作業所交流会の中で中区区役所1階ロビーにてバザーを定期的に行う計画がある。これにより年4回ほどのバザーが増える予定である。

### ※課題

- ・生産活動に関しては、引き続き利用者が無理なく取組める作業工程の検討を行い、計画を立てながら実施し、一定の生産数量を確保する。
- ・創作活動に関しては、現在協力して頂いているボランティアとは違う商品の縫製を行ってもらえるよう新たにミシンのボランティアを公募し、商品数の増加につなげ、利用者スタッフがマンツーマンで取組み、型の選択や色の選択を行い、より利用者の創作意欲を高める。
- ・自主製品の販売に関しては、出店回数を増やす事を考慮しながら出店バザーの再検討を行う。また商品販売時に、「染め注文」受注のPRを実施する。

## 3. 日課・行事活動・生活支援

### ア、日課(1日のプログラム)

- |             |                                     |
|-------------|-------------------------------------|
| 10:00~10:15 | 朝礼（出欠確認）                            |
| 10:15~10:30 | PT体操・ティータイム                         |
| 10:30~11:30 | 午前の活動（生産活動・創作活動・体操など、日替わりで実施。午後も同じ） |
| 11:30~12:00 | 昼食準備                                |
| 12:00~13:00 | 昼食                                  |
| 13:00~13:30 | 休憩                                  |
| 13:30~13:45 | PT体操                                |
| 13:45~14:45 | 午後の活動（14:00~15:20 入浴）               |
| 14:45~15:30 | リラックスタイム・ティータイム                     |
| 15:30~15:45 | 終礼                                  |
| 15:45~      | 送迎準備・出発                             |

## イ、日常生活支援・介助

- ・1日約11名の生活支援員で日中活動全般の介助を開始。

### ○ 体操について(PT体操含む)

- ・機能低下予防を目的に、午前・午後の約15分ずつ及び日中活動時間に取り入れ、マッサージや立位・座位・関節の曲げ伸ばしなど理学療法士の指導の下、各利用者のプログラムを作り、PT体操は毎日、体操は週2〜3回実施した。大きな変化はなくとも、利用者とのコミュニケーションを図りながら身体を動かす事が出来た。

### ○ 班活動について

- ・4班に別れ(畑班・押花班・創作班・散歩)それぞれの活動を週1回実施。生産活動・創作活動とは違い、各班の特性を生かしたことにより、普段見られない利用者の表情も伺えたが、支援員不足のため、外に出る機会が減ってしまい、畑班や散歩班が出られないことも多々あった。
- ・畑班が堺市役所行われた、おもてなし・花風景「千の花広場」に参加した。
- ・創作班を中心に各班全員で作上げた創作物「三つ編みのフラワーバスケット」が第30回障がい者作品展において、“大阪泉北ワイズメンズクラブ 工芸賞”を受賞した。

### ○ 調理実習について

- ・担当職員が焼き菓子を中心にメニューを決め「混ぜる」「こねる」など、利用者が参加できる工夫をしながら実施。

### ○ 入浴について

- ・午後2時〜3時20分を目安にローテーションを組み、日に2名ずつ1人当たり月2回程度の入浴を実施。当日発熱など入浴中止の利用者が出た場合は、別の利用者に入ってもらおうよう配慮した。

### ○ 訪問歯科について

- ・平成22年11月より、基本第一・第三水曜日に医療法人 藤山会 山本歯科医院より歯科医1名、歯科助手2名が来所。利用者12名・11月〜3月の間でのべ74名が利用した。

## ウ、送迎体制

- ・「10人乗りリフト車」など4台の車両を活用し、利用者全員の送迎を行う。

## エ、行事活動

### (1) 参加行事

- |                          |          |                 |
|--------------------------|----------|-----------------|
| ・バリアフリーコンサート「100万回生きたねこ」 | 堺市民会館    | アコム             |
| ・女性体育祭                   | 大山公園催し広場 | 堺市女性団体協議会       |
| ・堺市障害者スポ・レク大会            | 大仙公園催し広場 | 堺市身体障害者団体連絡協議会  |
| ・堺市肢体不自由児(者)父母の会バスツアー    | コウノトリの郷  | 堺市肢体不自由児(者)父母の会 |
| ・障害者作品展・見学               | 堺市市役所1階  | YMCA            |

### (2) その他行事

- |              |            |          |
|--------------|------------|----------|
| お花見          | 大仙公園       | 集い「あけぼの」 |
| バスツアー        | 和歌山・貴志     | 集い「あけぼの」 |
| じゃが芋掘り       | 上之         | 上之自治会    |
| 自治会納涼祭       | 陶荒田神社      | 上之自治会    |
| 陶器連合秋祭り      | 陶荒田神社      | 上之自治会    |
| 堺あけぼの福祉会イベント | 堺市産業振興センター | 堺あけぼの福祉会 |

#### 4. 健康管理(利用者健康管理及び健康診断)

- ・看護職員による、日々のバイタルチェック及び服薬管理
- ・健康管理の一環として嘱託医(江部医師)により年2回実施。(7月・2月)

#### 5. 防災対策(消防訓練)

- ・避難訓練を年2回実施。(6月・11月)6月は消防署立会いでの避難訓練を実施。

#### 6. 施設・設備の管理

- ・日常的に施設内の清掃を実施。 ・夏と冬に職員で大掃除を実施。
- ・専門業者により「施設内の洗浄とワックス掛け」(10月)
- ・業者により調理室内の冷凍冷蔵庫の保守メンテナンスを実施(5月)

#### 7. 地域との交流・実習生の受入

##### ア、地域行事

- ・7月「納涼祭」に参加。(利用者・保護者・職員)
- ・10月「だんぢり祭」の見学。(利用者・保護者・職員)
- ・10月 集い「あけぼの」バザーを開催し、地域の方々に来て頂く。
- ・12月「農作物即売会」に自主製品出店。(職員のみ)

##### イ、実習生の受け入れ(現場実習・介護等体験など)

- ・府立堺東高等学校の介護援助技術課の生徒、計41名を受け入れる。

#### 8. ボランティアの協力・支援等

- ・主として作業ボランティアとして毎週木曜日1名に来て頂く
- ・自宅にて、自主製品の商品(エプロン・巾着等型染用)の縫製1名、創作物(靴下)の製造1名の協力

#### 9. 職員の健康管理と研修等

##### ア、職員健康診断

- ・健康管理のため、常勤・非常勤職員は12月に移動検診車による健康診断を堺あけぼの園にて行う。
- ・調理員は、毎月検便を専門業者に依頼して実施。

##### イ、職員研修等 以下の研修・講習会に参加

- ・法人研修「じょぶライフだいせん 施設見学」4/30 辻林真澄 長井豊
- ・医療的ケア学習会 5/24 辻林真澄
- ・医療的ケア研修 6/2 長井豊
- ・食品衛生講習会 6/3 山本秀記
- ・緊急学習会第一弾・第二弾 5/17 6/19 山本秀記
- ・スキルアップ研修「知的障害者の障害性特性」9/11 森貴司
- ・介護事故とリスクマネジメント 9/14 山本秀記
- ・障害者の生活支援を考える会「自閉症の人の生活支援を考える」10/14 長井豊
- ・医療的ケア合同研修会「摂食と嚥下」11/12 11/26 山本秀記 長井豊
- ・堺市社会福祉施設職員研修会 11/25 森貴司
- ・福祉事業者が取り組むリスクマネジメントについて 12/6 山本秀記
- ・スキルアップ研修「身体障がい特性における介助方法」2/6 森貴司 辻林真澄
- ・第6回ギャラリーみなみかぜ身体ケア研修会 2/12 長井豊
- ・「医療的ケアを考える会」公開シンポジウム 2/15 山本秀記
- ・あるがままって素敵「あるがままに地域で生きていくための支援」2/26 緒方久美子
- ・介護職ための医療行為の理解と実際 3/13 山本秀記
- ・民間事業者対象社会福祉研修「虐待防止・権利擁護等について」3/17 山本秀記

# 堺あけぼの園ヘルパーステーション

## はじめに

平成15年度に移動支援の事業所として開設し、居宅介護を平成19年3月に開始。利用者も登録ヘルパーも増加してきた。今後の課題はヘルパーのコーディネートである。

- ・移動支援事業(地域生活支援事業)
- ・居宅介護、重度訪問介護事業(障害福祉サービス事業)

## 1. 利用者等の状況

### ア、年間実績

- ・ヘルパー稼働月平均：72名
- ・利用者月平均：72名
- ・居宅介護：2,436時間
- ・移動支援：17,440時間
- ・サービス回数(居宅+移動)：4,709回

### イ、主な障害種別(支給決定区分)「平成23年3月実績・移動と居宅の重複利用含む」

- ・移動(63名)⇒身体：44名・知的：13名・児童6名
- ・居宅(17名)⇒身体：13名・知的：1名・児童3名

合計80名

### ウ、居住別(請求先)利用者数「平成23年3月実績」

- ・堺市：56・和泉市：8・札幌市(札幌)：1・西宮市1・泉大津市：1・河内長野市：1・高石市：1 合計69名

## 2. 職員等研修

- ・スキルアップ研修(堺あけぼの福祉会職員研修としても実施)

①平成22年9月11日(土)10:00~12:00「知的障害者の障害特性」

講師=堺あけぼの園総括主任 濱野 雅一

②平成23年2月6日(日)10:00~11:30「身体に負担のない介助方法の紹介」

講師=南大阪病院リハビリテーション科山川 智之氏

- ・ヘルパー交流会

①平成22年11月17日(水)

②平成23年2月6日(日)

★情報提供(研修)と登録ヘルパーの交流

# 堺あけぼの園ヘルパーステーション(研修)

## はじめに

平成15年度に移動支援の事業所として開設して以来、新たな人材確保と社会資源を拡大することを目的に「ガイドヘルパー養成研修」を開校してきた。年に2回の開催を目指し講師の方々との調整や大阪府への届出、受講生の募集を行う。また、平成22年5月には福祉有償運送事業を開始した。

## 1. 移動支援従業者養成研修の開催

### ア、知的障害者移動支援従業者養成研修課程（大阪府指定）

- ①・期間 平成22年10月10日・11・23日の講義と施設実習1日(10/24・30・31・11/6)の計3日間  
・修了者数 26名
- ②・期間 平成23年2月26日・3月26日の講義と施設実習1日(4/2・9・10・17・24)の計3日間  
・修了者数 20名

### イ、全身性障害者移動支援従業者養成研修課程（大阪府指定）

- ①・期間 平成22年10月10日・11日の講義と演習2日(10/16・17)の計4日間  
・修了者数 20名
- ②・期間 平成23年2月26日・3月13日講義と演習2日(3/19・20)の計4日間  
・修了者数 18名

アとイの修了者のうち両課程同時修了者数 ①16名 ②13名

ウ、受講料

・知的と全身性	一般15,000円	学生10,000円	+教材費(2,520円)
・両課程	一般25,000円	学生15,000円	+教材費(2,520円)

### エ、講師(所属団体等)

「大阪社会福祉士会」「おおさか行動する障害者応援センター」「南海福祉専門学校」「南大阪病院」  
「社会福祉法人 コスモス」「社会福祉法人 障友会」等

### オ、実習依頼施設

「知的障害者入所更生施設 ピュアあすなろ」「知的障害者入所更生施設 パル茅渚の里」

カ、受講された方が登録ガイドヘルパーとして50時間以上勤務された場合、受講料を「報奨金」として支給  
学生=10,000円 ・ 一般=15,000円

## 2. 福祉有償運送事業

- ・平成22年5月20日付で、近畿運輸局大阪運輸支局に「自家用有償旅客運送者」として登録。
- ・登録車両：4台
- ・年間稼働数：65回
- ・年間走行距離：885km
- ・運転者実績：4名(登録者：10名)
- ・今後もヘルパー利用者の移動手段として、可能な範囲で運行していく。

# ショートステイ堺あけぼの

## はじめに

家族機能の代替として、宿泊（定員 8 名）を主とする一時預かりを事業の本質としています。主なる対象者は、肢体不自由児者であり、利用者のプライバシーを空間的・心理的に最大限確保する為、身の安全や健康維持を考慮して利用していただいています。しかしながら、急を要する方の利用においても、行政・各支援センター並びに他事業所とタイアップして取り組んでいます。

尚、堺市障害者(児)短期入所緊急利用支援事業においては、人員体制等の事由により、平成 23 年度の堺市との契約更新を辞退いたしました。

## 1. 利用者の状況

### ア、障害種別（平成 20 年 6 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日における登録者数の推移）

- ・身体障害者：118 名・知的障害者：30 名・児童 19 名 合計 167 名
- ・利用が出来なくなった方の状況（入所 11 名、死去 2 名、医療的ケア 3 名、精神・行動障害 6 名）
- ・平成 22 年度利用された方（身体障害者 80 名：知的障害者 17 名：児童 8 名）

### イ、居住別（入所並びに亡くなられた方は除く）

- ・堺市 141 和泉市 6 岸和田市 2 大阪市 1 八尾市 1 貝塚市 1 高石市 1 東大阪市 1 合計 154 名

### ウ、実績(泊数) ※総利用日数は 2, 561 日

※緊急的利用→家族による支援が（ほぼ）不可能なケースの宿泊数

提供月	身体	在宅	通所	その他	知的	在宅	通所	その他	児童	計	緊急的利用	日中一時
4	111	19	92		10		10		4	125	19	8
5	99	11	88		16		16		4	119	2	4
6	94	4	90		25		25		3	122	5	3
7	113	8	105		24		24		2	139	0	7
8	99	8	91		21		21		4	124	4	3
9	88	6	82		20		20		4	112	3	5
10	98	3	95		29		29		4	131	22	8
11	102	2	100		30		30		3	135	44	2
12	84	6	78		28		28		4	116	26	1
1	68	7	61		18		18		3	89	19	4
2	84	10	74		19		19		1	104	26	4
3	98	10	88		22		22		5	125	18	4
計	1138	94	1044	0	262	0	262	0	41	1441	188	53

### エ、利用者状況の概略

法人通所利用者とその他の利用者、その利用日数の割合⇒50：50

## 2. 事業の状況

### ア、短期入所

- 報告項目⇒①利用者像・・・肢体不自由、知的障害、児童  
 ②利用理由・形態・・・家庭の事情、家族の緊急（入院・葬儀など）  
 ③その他・・・堺市緊急枠使用は 8 回（4 泊）。

### イ、日中一時支援

- 報告項目⇒①利用者像・・・児童が主。  
 ②利用理由・・・休校等における家族機能の代替。  
 ③認可市町村・・・堺市、和泉市、岸和田市、八尾市

## 3. 職員の状況

常勤 ⇒ 管理者（1→堺あけぼの園管理者兼務）・事業責任者（1→堺あけぼの園兼務）  
 生活支援員（3→1名は支援センター兼務）

非常勤 ⇒ 生活支援員（12）、嘱託医（1）、支援員補佐（3）

## 4. 今後の課題

○より良い障がい者支援に向けてサービスの資質向上と充実。



# 生活支援センター堺あけぼの

## はじめに

平成22年度、相談人数、訪問活動を中心として相談支援を行った結果、件数ともに増加。担当の障害は身体障害ではあるが、知的障害、精神障害、高次脳機能障害の方々も相談数の一定の割合を占めており、それぞれの障害特性に合った相談業務を行っている。

堺市委託の相談支援事業の他には、大阪府指定の指定相談事業(サービス利用計画作成)も昨年同様に行い、独居の方々の生活を支えてきた。

加えて本年度より生活支援センター連絡協議会が堺市より受託している堺市障害者自立支援協議会事務局補助業務、相談支援機能強化事業、居住サポート事業の担当センターとなり、各事業の中心的役割をはたしてきた。

相談業務の他には、独居障害者の昼食会を定期的に開催し、集団作りにも取り組んでいる。

事業の概要は以下の通りである。

## 1. 利用者、相談種別の状況

### ①委託相談事業

#### ア、主な障害種別

- ・身体障害者 49 名
- ・知的障害者 20 名
- ・精神障害者 12 名
- ・重症心身障害者 1 名
- ・高次脳機能障害 5 名
- 合計 87 名

#### イ、主な相談別

相談支援の内容	件数(小計)	身体	知的	精神	重症	高次脳
福祉サービスの利用	524	281	162	56	0	25
地域移行支援	5	3	2	0	0	0
保健・医療関係	140	28	46	14	0	0
家族・人間関係	37	4	22	4	0	0
日常生活について	490	218	111	80	2	79
家計・経済	115	14	74	22	0	5
就労	1	0	1	0	0	0
社会参加・余暇	8	3	3	0	0	2
権利擁護	71	1	21	27	0	22
その他の相談	183	68	43	35	0	37

合計 1574件  
(昨年は1153件)

### ②指定相談事業

事業の利用者数 7名 (身体障害者7名)

相談件数 230件

## 2. 独自事業

### 独居障害者昼食会「たんぼぼ」

#### ・主な内容

独居障害者の仲間作りの場。活動内容は昼食を食べつつの歓談が中心(月1回)。

#### ・利用状況、効果等

平均利用人数6名

独居の障害者が仲間を作る場、相談をしあう場として機能している。

### 3. 他の機関との連携

#### ア、他の生活支援センターとの定期的な会議（情報交換やケース検討など）

自立生活支援センターマイロード、地域生活支援センター ナイスネット、総合生活支援センターえると、しんしょうれん、障害者生活支援センターファイト、支援センターおおはま、支援センターしらさぎ、地域生活支援センターフィットウェル、障害者地域支援センターうてな、ぴーすの支援センター、地域生活支援センター風車、精神障害者地域生活支援センターアンダンテ、精神障害者地域生活支援センターむーぶ、精神障害者地域生活支援センターゆい、こころの健康市民サポートセンター、サポートセンターセンターいんくる

#### イ、関係機関

堺市障害福祉課、各区地域福祉課、各区保健センター、堺市社会福祉協議会(各区社会福祉協議会)、堺市更生相談所、堺市こころの健康センター、発達障害者支援センター、子ども相談所、堺市障害者就労・生活支援センター等と定期的に会議を持ち、情報交換とケース検討・引継ぎなどを円滑に行っている。

#### ウ、自治会関係

- ・主に御池台地区の自治会、校区福祉委員会、民生委員等と連携を深めるため、下記の活動を行っている。  
月1回民生・児童委員とともに障害のある子を持つ親の会「レインボー」の後援。  
年3回地域ケア会議へ参加。関係機関と共に地域課題についての議論を行っている。

#### エ、障害者自立支援協議会関係

- ・堺市障害者自立支援協議会  
平成22年度より「堺市障害者自立支援協議会事務局補助業務担当センター」となったため、堺市障害者自立支援協議会をはじめ、全区自立支援協議会、全専門部会へ出席。情報の集約、運営の補助、予算の管理等を行った。
- ・南区障害者自立支援協議会  
地域で生活する障害者がよりよい生活を送るためのネットワーク作り、地域課題の抽出、啓発活動等を目的に、南区障害者自立支援協議会に参加し、地域課題について議論している。

### 4. その他

平成22年度、今後（平成24年度以降）の堺市における相談支援体制構築（案）の方向性が明示された。具体的には中央に（仮称）健康福祉プラザ内に総合情報相談センター、各区には基幹相談支援センターがおかれ、両事業を一括して新法人へ委託するという計画である。当センターとしては平成16年度以降相談支援事業に携わってきており、その中で積み上げてきたことを、新体制へ反映させていけるように努力していく。

**社会福祉法人堺あけぼの福祉会**

# **事業活動収支の推移**

**平成20年度～22年度**

## 各事業における事業活動収支の推移(事業活動収支内訳表より)

単位:円

事業所名 勘定科目	堺あけぼの福祉会			堺あけぼの園			堺あけぼの園ヘルパーステーション		
	20年度	21年度	22年度	20年度	21年度	22年度	20年度	21年度	22年度
就労支援事業収入	0	0	0	1,941,602	1,661,616	2,204,994	0	0	0
就労支援事業支出	0	0	0	2,077,309	2,246,898	2,011,552	0	0	0
収支差額①	0	0	0	-135,707	-585,282	193,442	0	0	0
自立支援費収入	0	0	0	118,373,061	127,630,238	134,286,394	1,607,852	3,995,475	6,502,955
利用者負担金収入	0	0	0	2,779,418	2,653,800	2,938,790	0	0	0
補助事業収入	0	0	0	0	0	0	23,754,475	29,723,062	32,435,811
養成研修事業収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福祉有償運送事業収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常経費補助金収入	0	0	0	3,000,000	3,094,000	5,727,286	0	0	933,214
堺市障害者自立支援協議会事務局補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
寄付金収入	840,000	390,000	340,000	1,286,500	1,815,500	1,449,000	0	0	0
雑収入	1,157,738	1,332,316	1,037,380	4,192,306	4,127,745	3,696,070	0	10,450	11,000
国庫補助金等特別積立金取崩額	0	0	0	7,670,199	8,113,551	8,186,932	46,000	71,885	201,310
福祉事業活動収入計	1,997,738	1,722,316	1,377,380	137,301,484	147,434,834	156,284,472	25,408,327	33,800,872	40,084,290
人件費支出	4,489,367	4,629,982	4,759,342	76,423,726	82,105,264	91,952,057	21,113,989	27,844,295	33,867,497
事務費支出	3,017,843	2,394,147	1,432,989	8,778,490	10,102,718	35,430,963	1,399,539	1,661,836	1,573,575
事業費支出	0	0	0	11,957,834	13,252,773	14,572,459	0	500	0
減価償却費	19,418	14,711	14,711	9,814,206	10,456,978	10,555,104	106,851	117,259	291,319
引当金繰入	2,400	49,439	19,201	341,393	254,545	394,486	18,240	147,289	41,199
福祉事業活動支出計	7,529,028	7,088,279	6,226,243	107,315,649	116,172,278	152,905,069	22,638,619	29,771,179	35,773,590
収支差額②	-5,531,290	-5,365,963	-4,848,863	29,985,835	31,262,556	3,379,403	2,769,708	4,029,693	4,310,700
事業活動外収入	6,477,778	78,047,405	5,863,186	84,452	13,596,198	13,379	9,477	2,599	2,313
事業活動外支出	5,000,000	0	8,139,360	24,977,558	58,371,553	8,645,370	1,000,000	7,838,088	28,900
収支差額③	1,477,778	78,047,405	-2,276,174	-24,893,106	-44,775,355	-8,631,991	-990,523	-7,835,489	-26,587
特別収入	0	0	0	1,025,000	6,325,000	19,165,000	0	930,000	0
特別支出	0	0	0	1,025,000	6,344,001	0	0	930,000	0
収支差額④	0	0	0	0	-19,001	19,165,000	0	0	0
総収支差額①+②+③+④	-4,053,512	72,681,442	-7,125,037	4,957,022	-14,117,082	14,105,854	1,779,185	-3,805,796	4,284,113

事業所名 勘定科目	堺あけぼの園ヘルパーステーション(研修)			生活支援センター堺あけぼの			集いあけぼの		
	20年度	21年度	22年度	20年度	21年度	22年度	20年度	21年度	22年度
就労支援事業収入	0	0	0	0	0	0	989,654	716,854	654,160
就労支援事業支出	0	0	0	0	0	0	1,039,635	737,522	688,899
収支差額①	0	0	0	0	0	0	-49,981	-20,668	-34,739
自立支援費収入	0	0	0	978,430	1,922,840	1,240,200	49,344,351	59,446,821	61,369,099
利用者負担金収入	0	0	0	0	0	0	985,500	1,037,400	1,072,500
補助事業収入	0	0	0	12,000,000	12,000,000	12,000,000	0	0	0
養成研修事業収入	845,000	1,143,640	962,960	0	0	0	0	0	0
福祉有償運送事業収入	0	0	94,950	0	0	0	0	0	0
経常経費補助金収入	0	0	0	0	0	0	3,000,000	3,000,000	4,227,281
堺市障害者自立支援協議会事務局補助金	0	0	0	0	0	4,302,920	0	0	0
寄付金収入	0	0	0	0	0	0	275,600	160,600	158,600
雑収入	0	0	200	162,340	20,000	0	1,607,679	1,645,615	1,504,317
国庫補助金等特別積立金取崩額	0	0	267,200	177,654	572,180	547,928	1,324,006	1,324,006	1,562,148
福祉事業活動収入計	845,000	1,143,640	1,325,310	13,318,424	14,515,020	18,091,048	56,537,136	66,614,442	69,893,945
人件費支出	254,850	225,150	275,000	7,561,150	9,170,071	13,428,404	38,710,089	36,715,541	40,713,678
事務費支出	98,493	307,712	392,855	3,268,275	2,127,874	2,964,985	5,128,365	5,070,271	5,395,970
事業費支出	0	0	0	399,191	667,006	568,585	4,500,091	5,612,242	6,391,234
減価償却費	0	0	372,966	498,571	930,172	928,216	2,577,222	2,043,384	2,544,789
引当金繰入	0	0	0	20,160	149,079	55,240	264,068	14,523	484,500
福祉事業活動支出計	353,343	532,862	1,040,821	11,747,347	13,044,202	17,945,430	51,179,835	49,455,961	55,530,171
収支差額②	491,657	610,778	284,489	1,571,077	1,470,818	145,618	5,357,301	17,158,481	14,363,774
事業活動外収入	1,255	468	425	5,202	1,824	903	9,511	4,307	4,902
事業活動外支出	0	0	0	1,440,000	2,540,000	1,840,000	1,200,000	18,050,362	3,301,150
収支差額③	1,255	468	425	-1,434,798	-2,538,176	-1,839,097	-1,190,489	-18,046,055	-3,296,248
特別収入	0	0	2,400,000	3,914,000	0	200,000	0	649,000	2,400,000
特別支出	0	0	2,400,000	3,989,650	0	200,000	0	0	2,400,000
収支差額④	0	0	0	-75,650	0	0	0	649,000	0
総収支差額①+②+③+④	492,912	611,246	284,914	60,629	-1,067,358	-1,693,479	4,116,831	-259,242	11,032,787

事業所名 勘定科目	ショートステイ堺あけぼの		
	20年度	21年度	22年度
就労支援事業収入	0	0	0
就労支援事業支出	0	0	0
収支差額①	0	0	0
自立支援費収入	13,817,250	22,247,410	18,483,303
利用者負担金収入	1,997,337	2,538,700	2,124,400
補助事業収入	1,554,086	1,830,713	1,874,955
養成研修事業収入	0	0	0
テキスト代収入	0	0	0
経常経費補助金収入	0	1,793,040	1,514,040
寄付金収入	331,854	159,000	0
雑収入	239,600	12,500	8,000
国庫補助金等特別積立金取崩額	150,223	180,268	180,268
福祉事業活動収入計	18,090,350	28,761,631	24,184,966
人件費支出	23,939,320	29,498,483	25,989,616
事務費支出	960,649	1,155,344	1,207,859
事業費支出	3,695,110	4,461,660	3,641,056
減価償却費	844,667	1,013,601	1,013,601
徴収不能額	0	0	1,400
引当金繰入	55,739	55,758	56,574
福祉事業活動支出計	29,495,485	36,184,846	31,910,106
収支差額②	-11,405,135	-7,423,215	-7,725,140
事業活動外収入	66,665,929	8,506,126	7,752,218
事業活動外支出	0	13,468,890	57,120
収支差額③	66,665,929	-4,962,764	7,695,098
特別収入	0	0	0
特別支出	8,201,168	0	0
収支差額④	-8,201,168	0	0
総収支差額①+②+③+④	47,059,626	-12,385,979	-30,042

## ア、堺あけぼの福祉会

### ・事業活動外支出

⇒ 経理区分間繰入金を平成20、22年度に施設整備のために繰入したのでマイナス決算。

### ・雑収入

⇒ バザー収入(10万円程)以外は、各会計が按分する松本税理士事務所への業務委託費分である。

### ・事務費支出

⇒ 多くの経費は、各会計が負担(按分)する松本税理士事務所への業務委託費分である。

★今後は、各会計の資金収支差額を全額繰り入れることで、次の事業展開や各事業で多額の資金を必要とする固定資産の購入や大規模な修繕等の経費に当てる。

## イ、堺あけぼの園

### ・就労支援事業

⇒ 平成7年に身体障害者通所授産施設として開園して以来、活動の中心として「授産活動」を続けてきたが、多くの利用者の方々の高齢化や重度化などにより、身体に無理なく続けていく方法や施設として活動の方向性を転換していく必要がある。

### ・自立支援費収入

⇒ 報酬体系の見直し(減額)があったものの、「定員緩和」を活用し、毎年新たな利用者を迎え入れたことにより増収となっている。

- ・ 経常経費補助金収入
  - ⇒ 平成22年度に増額しているのは介護職員処遇改善事業(介護給付費等の単位数に応じて)である。
- ・ 人件費支出
  - ⇒ 増加傾向にあるのは、利用者増に比例し生活支援員数(主に非常勤職員)が増加しているため。非常勤雇用ながらフルタイム勤務の生活支援員を増員にしたため。専門職(看護職員・機能訓練士・言語聴覚士)の配置を充実させてきたため。常勤職員の残業が多くなっている。の4点が挙げられる。
- ・ 事業活動外支出
  - ⇒ 増額はショートステイ堺あけぼの会計への経理区分間支出が多くを占めるのだが、平成20年度については施設整備会計へ繰入のため多額になっている。
- ・ 特別収支
  - ⇒ 補助金や助成金を活用して固定資産を購入している。平成20年度は、授産活動活性化事業(大阪府)により、レジスター・印刷機等を導入。平成21年度は、日本財団助成により、食品の移動販売車を導入。平成22年度は、大規模修繕補助事業(国庫補助)

★ 今後は、法人理念にある「重度重複障害者」(医療的ケア含む)が安心して、充実した活動が出来る施設としていかなければならない。そして加齢に伴うさまざまなケアが必要な利用者への対応も必要である。

## ウ、堺あけぼの園ヘルパーステーション

- ・ 自立支援費収入(居宅介護・重度訪問介護)、補助事業収入(移動支援)
  - ⇒ 増収傾向を維持している。要因は、利用者増、報酬体系の変更によるものである。
- ・ 人件費支出
  - ⇒ 居宅介護・重度訪問介護・移動支援の利用者が増加することと比例し、登録ガイドヘルパーの活動時間数が増加するため支出が増加。また、常勤のサービス提供責任者を増員したことも要因。
- ・ 事業活動外支出
  - ⇒ 平成21年度が突出しているが、本部会計へ繰り入れたためである。

★ 今後は、事務経費の多くを占める「振り込み手数料」を抑制する事と、ヘルパーのコーディネイトと共に3名のサービス提供責任者が把握し適正なサービスが提供できる規模を見極めていく事が課題である。

## エ、堺あけぼの園ヘルパーステーション(研修)

- ・ 福祉有償運送事業収入
  - ⇒ 平成22年度から新たに開始した事業で料金設定は
    - 【移送費】 初乗り2kmまで300円・以後、50mごとに50円
    - 【待機料】 50円/10分 【介助料】 1,000円/1時間
    - 【キャンセル料】 2,000円
- ・ 事務費支出
  - ⇒ 平成21年度に20万円以上増額しているが、養成研修のテキスト代を計上した為である。また、福祉有償運送の運転手謝礼を雑支出で計上した。(50円/1km)
- ・ 減価償却費
  - ⇒ 今年度初めて計上されているが、福祉有償運送用車両を導入したためである。
- ・ 特別収入、支出
  - ⇒ 240万円の計上はリフト車両を大阪府共同募金会の女性を受けて導入した経費である。

★ 今後も研修事業の安定的な継続。そして、福祉有償運送事業はヘルパー利用者の移動手段として、可能な範囲で運行していく。

## オ、生活支援センター堺あけぼの

- ・自立支援費収入  
⇒ 平成21年度「サービス利用計画作成」の単価が報酬体系の変更により増収となった。
- ・堺市自立支援協議会事務局補助金  
⇒ 平成22年度から2年間、堺市自立支援協議会事務局補助を担う。それに伴う経費の増額。  
★「事務局補助」業務は、生活支援センター連絡協議会(任意団体)が堺市から委託を受け、当事業所の相談員が業務を担っているため雑収入で処理している為。
- ・事務費支出  
⇒ 平成20年度途中で事務所を泉ヶ丘駅付近から現所在地に移転したため賃借料が減額となったが、平成22年度からの堺市自立支援協議会事務局補助業務に伴う「複合機」(カラープリンター)の賃借料が増加している。
- ・事業活動外支出  
⇒ 本部会計とショートステイ堺あけぼの会計へ一部人件費負担分として経理区分間繰入。  
特にショートステイ堺あけぼの事業開始以降は1名の常勤職員が兼務しているため増額。

★今後は、堺市における相談支援体制の再編により委託事業が平成23年度末で廃止予定であるが、新たな堺市独自事業として「相談支援機能を備えた『地域活動支援センター』」も検討されており、今後も国や堺市の流れに沿って、より充実した相談支援体制を維持していくことが重要である。  
また、平成22年度から2年間、堺市障害者自立支援協議会の事務補助を担当することとなった事は、堺市内の相談支援事業所の中心的役割を担うことに繋がり、大変意義のあることである。

## カ、集い「あけぼの」

- ・自立支援費収入  
⇒ 順調に増加しているが、21年度の単価変更(増額)と利用人数の増加によるものである。
- ・経常経費補助金収入  
⇒ 平成22年度に増額しているのは介護職員処遇改善事業(介護給付費等の単位数に応じて)である。
- ・人件費支出  
⇒ 平成21年度に減額しているのは、常勤職員等が年度途中で退職したためである。
- ・事業活動外支出  
⇒ ショートステイ堺あけぼの会計への経理区分間繰入を平成22年度は増額した。
- ・特別収入、支出  
⇒ 240万円の計上はリフト車輛を大阪府共同募金会の女性を受けて導入した経費である。

★福祉事業活動収支差額が平成21年度の介護給付単価の増額変更もあり増額となってきたので、今後の課題として、重度重複障害者、特に医療的ケアを要する方々の利用(対応)を図りつつ、安定した利用率の維持があげられる。

## キ、ショートステイ堺あけぼの

- ・自立支援費収入  
⇒ 平成21年度と比較して減額しているのだが、年度途中で夜勤を専属で勤務していた職員が2名(男女)退職したため利用人数をせざるを得ない時期があったためである。
- ・経常経費補助金収入  
⇒ 平成21年度から送迎サービスに関する補助金が創設され、月額15万円弱の増収となった。
- ・その他の経費  
⇒ 大きな変化は見られない。できるだけ経費を抑制する努力は今後も継続していく。

★今後の課題として、重度重複障害者を支援するためには多くの人材確保とスキルアップ、また、医療機関との連携や人件費を担保する事が必要不可欠である。堺市独自補助が平成23年度から再編され、これまで対象となっていなかった当事業所も対象となり経営的には少し上向きであるが、まだまだ基本報酬単価の増額が望まれる。